

岡山県合唱連盟機関紙  
トゥッティ 第43号

発行責任者：岡山県合唱連盟

事務局長 内田 毅

事務局：岡山市福泊168-7

TEL(086)274-2726/FAX(086)274-2730

# Tutti

## 歌うことの原点

岡山県合唱連盟副理事長

上月 明



岡山県合唱連盟の創立五十周年記念演奏会で、お世話になった関屋先生と親しくお話しをする機会がありました。関屋先生は一九九八年の著書「コーラスは楽しい」の中で、ご自身のコーラス人生の原点について、旧制中学の入学式でドイツ語で歌う男声合唱に触れ、まさに魂をうばわれるほどの感動を味わったことを紹介されています。その関屋先生に、音楽に興味をもつようになられたきっかけを尋ねてみました。小学校のとき、担任の先生に楽譜の読み方を教えていただき、楽譜が読めるようになったこと。楽譜が読めることで、他の人の知らない特別な世界に入っている喜びを知ったことがきっかけだとお話されました。その時に次のようなことも話されました。「人間は誰でも心の中にいろいろな可能性をも

つたろうそくがある。私の場合、いろいろなろうそくのなかからたまたま音楽のろうそくに灯をともしてくださったのです。」小学校に勤務する私にとって、特に印象深く聞かせていただきました。さて、私自身の歌うことの原点は高校時代であります。残念ながら小学校・中学校では音楽をすることに喜びをもてるような機会がありませんでした。高等学校で素敵な音楽の先生に出会い、歌うこと音楽することの喜びを与えてもらったのです。まさに心のろうそくに灯をともしてくださったので、教育の場に身を置くもの一人として、小学校・中学校・高等学校で一人でも多くの児童・生徒の心に、灯がともることを願っています。教育改革が進行中の学校では、音楽の授業時間が削減されるなど非常に厳しい状況ではありますが、しかし、授業時間が少なくなっても、学校や社会における音楽の重要性は変わるはずはありません。むしろ心の教育が求められている現在、音楽の果たすべき役割はますます重要になってくると思われれます。学校教育の場であれ社会教育の場であれ合唱を愛する若い人たちがますます増えることを望んでいます。岡山県合唱連盟には現在七十二団体約二千三百人が所属しています。その一人一人に、歌うことの原点があることでしょう。各団体は様々な人の想いを

集約しながら、活動されていることと  
思います。合唱連盟としては、合唱団  
どうしの交流を深め、これまで以上に  
有益な情報交換ができ、互いに切磋琢  
磨できるような機会がもてる活動を展  
開していくことが大切だと考えます。  
そのためには、皆さんの積極的な提案  
や参加が欠かせません。みんなで作り  
上げる連盟の活動は、歌うことの原点  
へつながるものでありたいと思います。

## #うつつちゃん通信

新しい年度が始まりました。今年度  
は全国的な事業もありませんので少し  
楽が出来るかな、と思っています。  
さて、最後のページに今年の事業運  
営分担当表を載せています。各理事をそ  
れぞれの事業に割り振り、各団から推  
薦いただいた方々には希望の事業に運  
営委員として入っていただきました。  
基本的にはこの理事と運営委員で実  
行委員会を組織し、実際の運営にあた  
ることにあります。運営委員の方々、  
実際の事業にあたっては最低一回の実  
行委員会への出席、当日のスタッフ確  
保をお願いすることになりますのでよ  
ろしくご承知下さい。もちろん手薄な  
ところは理事会全体でカバーします。  
と言うことですぐに「合唱講習会」  
「おかあさん大会」と事業が続きます。  
連盟会員の皆様、聴衆としても連盟の  
発展に協力いただきます様、切にお願  
いします。  
Tuttiの原稿を募集します。発  
行予定は八月、十一月、二月です。何  
時でも受け付けていますのでお送り下  
さい。  
(事務局長)



## 春

新しく加入された団の紹介です

石井 宏 昌

こんにちは、Manner Choir "I" の石井です。

このたび、岡山県合唱連盟に加盟致しました。Manner Choir "I" は、名前に示すように、男声合唱団です。この合唱団を始め、たのは、日常のしがらみを離れ、純粹な心のハーモニーを追求できる場を作りたいと云う、高尚な欲求がつのり、同じ思いの仲間が参集したのが始まりでした。要するに、ワイワイと飲みたかっただけのようすが・・・。

斯くして、産声をあげた合唱団(？)は、各々の知り合いに声を掛け、またその知り合いに声を掛けと云う具合に、次第にその輪(魔の手)を拡げ、ついに約三十名もの勇士が集いました。それぞれの出身学校の合唱団の知り合いに声を掛けたため、集まったメンバーは、西は岡山から東は遠く京都まで広く、且つ薄く分布しています。強引な勧誘により急速に勢力を増した合唱団ではありませんが、当然の結果として、定期的な練習日を設定できなくなり、団員の都合に合わせて、その都度練習日を決めています。それでも、いまだに

全団員が一堂に会したことが無いありさまです。その上、結成間もないと云うのに貴重な団員が四月で転勤となつてしまい、横浜支部の開設を余儀なくされてしまいました。

このように、合唱団としての運営にはいささか問題があるようですが、当初の目的は練習の後でしっかりと実践しています(むしろそっちが真骨頂)。そろそろ、合唱の方面にも力を入れる必要があるようですが、そのうちに閑谷学校で合宿をしたいと、考えているところです。

以上、近況をお知らせしました。コンクールで会える日を楽しみにしています。

## 作陽混声合唱団

因幡 真 輔

初めまして、今日は。作陽混声合唱団です。約半年間の備期間を経て、今年の二月に活動を開始した、まだできて間もない合唱団です。

この合唱団は、みんなで楽しく歌いたい、コンクールや合唱際(福岡県ではこう呼んでいます)に参加するなどして、合唱を通して色々な人と出会いたいという人達が集まって結成されました。宗教曲なども歌い

ますが、主に邦人作品を取り上げて練習していこうと思っています。

くらしき作陽大学学生会の中の同好会として活動している合唱団ですが、特に大学の先生が指導者としているわけではないので、団員の中から音楽専攻生がリードして練習に取り組んでいます。団員は主科音楽専攻生ばかりではなく、ピアノ専攻や情報音楽専攻、民族音楽専攻の人など、様々な専攻の人がいます。又、合唱という音楽に深く関わった事のないメンバーが大半を占めています。

我が合唱団にも言えることで、創立した時からの課題の一つなのであるなら、男声団員の数には頭を悩ませているのではないのでしょうか。合唱離れが進む中、いかに男声を増やすかということはかなり難題だと思います。

この事について自分達なりに考えたのですが、私達は見学者に対して、また来たいなと思わせる雰囲気作りを心がけています。

私達はまだこれくらいの事しか考えられないので、何か良い案があったら是非アドバイスを頂けると嬉し

いです。まだまだ団の基盤も全然できていなくて、果たしてずっと存続していくのかととても心配なのですが、これから宜しくお願いします。

さて、ここで我が団長兼学生指揮者のプロフィールです。

因幡 真輔(いなば しんすけ)

昭和五十四年八月五日生

血液型はAB型で、動物占いによるとたぬきとなっている。

出身は福岡県北九州市(生まれは大阪府豊中市だが・・・)で、イントネーションは標準語に近いが、言葉の語尾に「くつち」や「くちや」とつくのが特徴である。

北九州市立二島中学校、福岡県立八幡南高校を卒業し、現在くらしき作陽大学音楽学部で声楽を学んでいる。声楽を原田テルミ氏(福岡県立東築高校教諭)遠藤晶秀氏に師事。

在学中に全国大会で金賞を受賞した母校中学校合唱部や、全国大会に幾度も出場している東築高校音楽部の合唱を聞き、合唱の世界に深くのめり込み、今では合唱マニアと呼ばれる程になった。

もちろん目指すは東築高校音楽部のような合唱(といっても九州人しか分からないだろうが・・・)で、今でも休暇ごとに東築高校に通っている。好きな曲は「遥かな時の彼方へ」と「水ヲ下サイ」。夢は合唱団で全国大会に出場し金賞を受賞することである。



### ヨーロッパ演奏を終えて

笠岡みたけ少年少女合唱団  
三宅 万里子

私は最近「生涯において本当に学ばないといけないもの」はなにか、良く考えることがあります。

以前、ある生徒が「高校の現代社会の用語集の中に「よく、生きる」という言葉があったのが、非常に違和感を覚えた」と言う話をしてくれました。その生徒は生きることに、良い、悪いと言わず、次元で考えたことがない、と言います。生きることは全て良いことで、それ自体を用語として取り上げることに対して意味があるのか、と尋ねていました。日常に埋没してしまえばこの用語の意味も見えなくなると言います。

「良く、生きる」ポーランドで出会った中谷さんは、ある時このことを考えたのではないかと思います。

「今の日本は何かしら間違っている。それから逃げ出したのかもしれないが、自分はこのアウシュビッツに身を置くことで、善も悪も持つ人の心や本当の思いやりを忘れない様にしたい。」と語っていました。中谷さんの目は涼しげで時には寂しくも見えました。

中谷さんは日本人で始めてのアウシュビッツ収容所施設の公式ガイドに認められた方です。

中谷さんがアウシュビッツ収容所施設の案内で語ってくれたことは、とてもこともたちに伝わりました。

団員達が経験していない(知らない)五十年前の惨劇について遠い世界の一部の特別な人が行なった歴史ではなく、それは現在にも通じる。  
例えば学校社会にも存在する。「いじめ」

がこの歴史を繰り返す可能性があること。だから心の持ちようで、平和への取り組みは日常生活の中から行なえることを考えて欲しい、と語られました。

またこのような残酷なことをした人たちも、家に帰れば良き夫であり父親であるという事実は、その行為をその時の社会が容認あるいは奨励してしまえば、人間はそれまでの道徳感もどこかに吹っ飛ばしてしまい、人を殺しながらも楽しく暮らせるという人間の残酷な一面も悲しいけれど知る必要があると言われました。

アウシュビッツ「死の壁」で、子供達は涙を流しながら、ポーランドの心の国歌「ガウディマーテル」を歌いました。私は命を絶たれた方々に心からの歌を捧げることで頭が一杯になり、献花を忘れてしまいました。子供達は代りに鶴を折って捧げることを提案してくれました。そしてガス室の跡地に子供達はそれぞれ思いを込め、鶴を静かに置きました。

この施設で感じた気持ちにはみんな一生忘れないと私は確信しています。  
平成十二年三月二十五日からの、団員二十七名を含めた総勢三十四名がポーランド、オーストリアで、平和、心の音楽を考えた欧州での演奏の旅十一日間を無事終えました。

合唱を通じていろいろな人と巡り会えました。オーストリア、ヴィーゼンブルグ音楽学校長ヨハネスみどり先生ご夫妻や、ホストファミリー、ローガツボーデン(養護施設)の子供達、ポーランドの子供の家(コルチャック財団の孤児院)の人達、そしてシヨパンが洗礼を受けたプロフ教会の神父さん。私達が受けた感動は、この人達の「まなざし」「心」です。

ポーランドのプロフ教会ではミサの演奏が終わった後も列席された方々と教会の外で心のふれあいが出来ました。  
ポーランド国立オシビエチム音楽学校では、ガウディマーテルの合唱のとき

は皆さんが起立され、客席とステージが一体となって歌いました。聴衆の方々の表情は不思議にも泣きながら微笑んでいるように見えました。

ポーランドの子供の家では交歓演奏会の後、日本から持って行ったお土産でみんなで遊びました。演奏途中に失敗して泣きながら舞台を後にした男の子は、もう一度の演奏のチャンスでアコーディオンを立派に演奏しました。

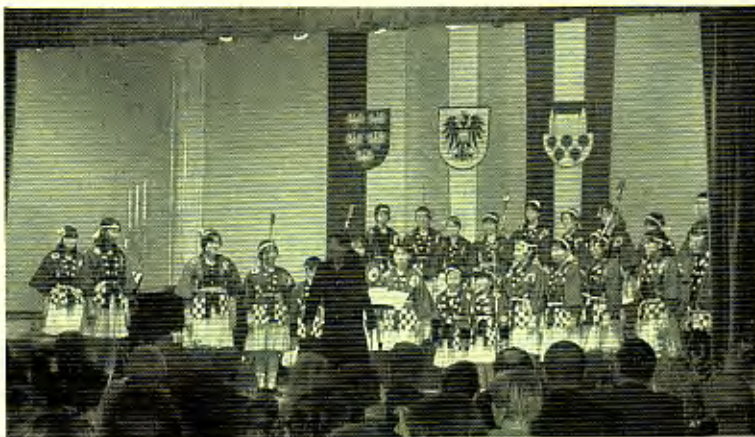
日本で厳しい練習を積んで受けた、声楽、ピアノ、フルートのマンツーマンレッスン。オーストリアのヴィーゼンブルグ音楽学校では、心で奏でる演奏を教えてくださいました。  
オーストリア、ローガツボーデン学校では知的障害者の子供達とみんな手をつなぎ輪になって歌いました。つないだ手の温もりは今でも覚えています。

ギムナジウム高校では交歓演奏会と、英語や数学、物理、音楽、美術の授業に参加しました。  
観衆六百名の中で行われたヴィーゼンブルグ音楽学校との交歓演奏会では、団員達のピアノ演奏と合唱。「マイハートウィルゴーオン」の演奏では、会場全体が静寂の中に包まれました。

そしてホストファミリーも参列して行ったヴィーゼンブルグ教会でのミサ演奏。  
度重なる感動的な演奏会に同行したスタッフは、「聴く側は涙が出てしまうけど、歌っていて泣きそうになることはあるの？」とある団員に聞きました。  
「うん、泣くのを我慢しながらうたっているよ。団員は答えました。

いろいろな人が様々な環境に置かれ生活しています。中には生れ持った不遇な環境で暮らす人々もいました。少しでも多くのことを経験し、吸収し、そして考え、良い意味で自分のものにしていくように思います。そうすればいろいろな人々の心が理解でき、本質的な意味で相手の

立場に立てる素敵な人になれると私は信じています。  
子供達は返る際、「まだ帰りたいくない」「もう一度、必ず来る」などいろいろな気持ちでオーストリアを後にしました。そして、ある団員は帰国して両親に「どうだった」と聞かれるところ答えました。「今までに生きてきた中で、一番感動したんだよ。とても言葉になんかで伝えられない。行った人しかこの気持ちにはわからないよ。合唱やピアノを続けさせてくれてありがとう。」  
合唱を通じて、長い年月を共に過ごした団員達。これからお互いに心を通じ合わせながら、目に見えないものを大切にして行きたいと思えます。





## 副理事長退任にあたって

田中 浩

この度、副理事長を退かせていただきました。皆様方には大変お世話になりました。本当にありがとうございました。私にとっては大変に充実した六年間でした。中でも県連の五十周年記念演奏会、チボリ公園での全日本合唱連盟五十周年記念演奏会(コーラス・ジャンボリー)昨年全日本合唱コンクール中学・高校部門など、私の人生の中でも思い出に残る大会が次々と開催され、それに関わることが大きな幸せでした。人生では巡り合わせの善し悪しがよく言われますが、その点で言えば私は非常に良かったと思います。これも周りの方々の助けがあった、自分なりの仕事が出来て初めて感じられることであって、その点でも大変恵まれた環境にあったと、ただただ感謝するのみです。

私は副理事長をさせていただいて、色々なことを勉強させていただきましたが、なによりも有り難かったことは色々な人との出逢いによって自分の世界が広がったことでした。前号のTuttiで「後進に道を譲って勇退」と書いて下さっていましたが、私の全くわがままでヨーロッパに住んでみたいと言う強い願望が前からあり、今回の退任のきっかけになった訳です。これも自分の世界が広がるにつれてヨーロッパにも友達が出来たお陰で、元氣なうちに行ってみようと言うことになりました。本格的には来年から、二ヶ月くらいミュンヘンに思っています。あちらに行きたい人、住みたい人達のボランティアアくらい出来れば思っているのですが、退任しましても合唱活動はずっと続けて行きたいと思っていますし、色々な演奏会の計画もあります。今まで通りのお付き合いをお願い申し上げます。本当に長い間ありがとうございました。

## 平成12年度・岡山県合唱連盟事業運営分担表

1) 岡山県合唱講習会(6/18:岡山シンフォニーホール・スタジオI)  
(9/9: )

|      |                              |      |  |
|------|------------------------------|------|--|
| 役員理事 | 上月 明 (副理事長)<br>高野 敦<br>矢内 淑子 | 運営委員 | 畑 悦江 (就実コール・フローラ) 086-279-1881<br>河手 光江 (就実グリー) 0865-42-2052 |
|------|------------------------------|------|--|

## 2) 第23回全日本おかあさんコーラス中国支部岡山大会(6/25:岡山市立市民文化ホール)

|      |  |      |                             |
|------|--|------|-----------------------------|
| 役員理事 | 上月 明 (副理事長)<br>中村 芳宏 (山陽女子高校)<br>金羽木栄二 (創価学会岡山男声合唱団)<br>長谷川由香 (清心女子大学グリー)<br>日下 光世 (玉野市民女声合唱団)<br>石田 享子 (コール・ココ) | 運営委員 | 西村 佳子 (ポット・ママ) 086-243-1238 |
|------|--|------|-----------------------------|

## 3) 第53回岡山県合唱コンクール(8/20:倉敷市芸文館)

|      |   |      |  |
|------|---|------|--|
| 役員理事 | 片山 康雄 (副理事長)<br>原田 一郎 (岡山混声合唱団)<br>森脇 英樹 (倉敷男声合唱団)<br>難波 夕鼓 (倉敷少年少女合唱団)<br>高垣 康子 (コールあまくさ)<br>藤本奈津子 (川崎医療福祉大ちよらす) | 運営委員 | 山本まさみ (瀬戸内混声合唱団) 086-473-3180<br>和田 展子 (コール・クライネ) 086-421-4182<br>馬場 修 (川鉄スティールメイツ) 086-462-0635<br>鈴木 悦子 (女声合唱団ゆう) 086-233-3472 |
|------|---|------|--|

## 4) 第53回岡山県合唱フェスティバル(10/8:岡山シンフォニーホール)

|      |   |      |  |
|------|---|------|--|
| 役員理事 | 片山 康雄 (副理事長)<br>山田 威夫 (コール・ゆうぶんげん)<br>中村 芳宏 (山陽女子高校)<br>森 幸子 (すみれコーラス)<br>三宅 紀子 (レディースアンサンブル)<br>長尾 節子 (夕なぎコーラス)<br>松笠 剛志 (岡山大学グリー) | 運営委員 | 藤沢 将之 (笠岡みたけ合唱団) 086559-4830<br>近藤 太郎 (コール・ロクタス) 090-4107-9145<br>三宅 妙子 (せせらぎコーラス) 08695-2-2412<br>増田 脩子 (岡山なでしこ) 086-282-3640 |
|------|---|------|--|

## 5) 第8回岡山県ヴォーカルアンサンブルコンテスト(2/11:岡山市立市民文化ホール)

|      |  |      |   |
|------|--|------|---|
| 役員理事 | 上月 明 (副理事長)<br>大山 敬子 (総社西中学校)<br>森野 啓司 (岡山城東高等学校)<br>内田ちひろ (高梁中学校)<br>守安 志織 (合唱団こぶ)<br>守屋 宏 (理大クリスタルコール) | 運営委員 | 藤原千代子 (コール・ピクルス) 086-455-0028<br>柴田 公平 (いずみの森合唱団) 086-253-9095<br>山下愛由子 (岡山少年少女) 086-462-6889 |
|------|--|------|---|

※<事務局より>前号で掲載した役員名簿の訂正をお願いします。

中学校理事団体を総社中学校から高梁中学校に、大学理事団体の「ちよらす」藤本さん住所変更です。

|     |                       |       |  |                              |
|-----|-----------------------|-------|--|------------------------------|
| 中学校 | 高梁中学校音楽部              | 内田ちひろ | 〒711-0936 倉敷市児島柳田町 2350<br>〒716-0062 高梁市落合町近似 1260-1 | 086-473-1592<br>0866-22-2403 |
| 大学  | 川崎医療福祉大学<br>混声合唱団ちよらす | 藤本奈津子 | 〒710-0114 倉敷市松島 233-6<br>サンステート 105 号                | 090-4696-7309                |